

令和3年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 鶴岡市	エントリー部門 <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・任意団体等
取組名 楽しみ、味わい、学ぶ下水道 ～BISTRO 下水道を基軸とした異業種連携プロジェクト	
責任者 氏名：佐藤 拓哉 所属：鶴岡市上下水道部下水道課浄化センター 電話：0235-24-7033 E-mail：joka@city.tsuruoka.yamagata.jp	
担当チームの構成 (外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい) ・鶴岡市上下水道部下水道課 浄化センター及び下水道係職員 2名	
取組のポイント (一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい) I 異分野・他業種との連携による、鶴岡ならではの「BISTRO 下水道」の挑戦 ①下水道×農業：発電余剰熱を利用したハウス栽培、処理水による飼料用米や水耕栽培など ②下水道×食文化：処理水を用いたアユの養殖や特産品の開発 ③下水道×観光：加茂水族館とのコラボによる養殖アユの展示やレストランでの食材利用 ④下水道×教育：地域DMOと連携した教育旅行プログラムや学校給食を通じて下水道を伝える (参考)⑤下水道×JAZZ：世界初(?)JAZZカルテットが奏でるBISTRO下水道ソング II 異業種コラボを加速する 五感で感じて、楽しく、わかりやすい情報発信	
アピールポイント ・下水道と地域資源を生かした異分野・他業種とのコラボレーションによる相乗効果の発揮 ・「見る」だけでなく、味わい、聴いて、楽しく学べるPR活動の推進	
要したコスト ・広報宣伝等経費については特に支出なし	

ウラ面に続きます

取組の概要(適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい)

【はじめに】

鶴岡市では、平成25年度から下水道資源を農作物の栽培等に活用する「BISTRO下水道」に着手しました。下水道は生活に密着した基礎的インフラにも関わらず日常生活ではほぼ意識されず、寧ろネガティブな印象を持たれることが多い現状にあります。BISTRO下水道を通じて下水道資源の食や農業への利活用が進むことで、下水道への理解促進やイメージの向上などに大きな効果が期待されます。

BISTRO下水道自体、「下水道×農業」という異業種コラボの代表的存在でもあります。豊富な地域資源を生かしながら、さらなる異業種・他分野とのコラボレーションに挑戦することで、下水道単体ではなしえない相乗効果が発揮されます。

I. 異分野・他業種連携による鶴岡ならではの「BISTRO下水道」の挑戦

① 下水道 × 農業

- ◆ JA 鶴岡・山形大学と連携した共同研究
- ◆ 発電余剰熱によるハウス加温栽培
- ◆ 処理水による飼料用米等の栽培
- ➔産・学・官共同による下水道資源の地域内循環によるBISTRO下水道の普及啓発



② 下水道 × 食文化

- ◆ 漁協や水族館との連携
- ◆ 処理水で藻を育てアユを養殖
- ◆ 新たなアユ料理や加工品の試作
- ➔食文化創造都市のポテンシャルを生かした養殖技術や特産品開発のPR



③ 下水道 × 観光

- ◆ 加茂水族館との連携
- ◆ 養殖アユの展示やパネル展示
- ◆ レストランでの料理試作やメニュー化検討
- ➔水族館とのコラボで理解を深める下水道と「食」との繋がり



④ 下水道 × 教育

- ◆ 地域DMOと連携
- ◆ 教育旅行ガイドへ掲載、修学旅行受入
- ◆ BISTRO作物の学校給食への提供
- ➔教育旅行や給食を通じて地域内外へ伝わる下水道の役割と可能性



II. 異業種コラボを加速する、五感で感じて、楽しく、わかりやすい情報発信

YouTube



HP・SNSの活用



イベント



メディア



成果(数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい)

異業種コラボを積極的に行うとともに多様な媒体によるわかりやすい広報活動に努めてきた結果、事業の拡大のみならず、世間的にはマイナーなBISTRO下水道の周知・PRとして着々と成果が表れてきており、TV全国放送やweb・新聞等への記事掲載等高い注目を集めるとともに、さらには視察や修学旅行の受入についても年々増加するなどの成果が発揮されています。